

【テーマ2 効果的な入職の在り方に関する研究】 株式会社浜銀総合研究所

「公立高等学校における多様な人材を獲得するための特別の選考等と入職後の指導力等との関連性を定量的に把握するための調査研究」

調査の概要

◆課題認識

・外部人材の活用等、多様な人材・優秀な人材確保のための制度・仕組みに関する検討等を進めることが求められている。
・しかし、検討を効果的に進めるために必要となる、政策推進のための論拠となり得る客観的なデータは、これまで必ずしも十分に把握されてこなかった。

◆調査研究の目的

・高等学校段階における、民間企業等での勤務経験（民間企業社員・団体職員、公務員としての勤務経験）をした上で入職した教員指導力の現状等を明らかにする。

◆調査研究の方法

・①公立高等学校現職教員対象のアンケート調査、②民間企業等での勤務経験を有する現職教員対象のヒアリング調査、③教育委員会対象のヒアリング調査、の3つの調査を実施。
・アンケート調査では、民間企業等での勤務経験の有無別の比較分析を実施。

◆調査協力・対象

・北海道、埼玉県、和歌山県に協力を得て調査を実施。
・アンケート調査は公立高等学校52校を対象に実施し、670件の回答を得た。現職教員対象のヒアリング調査は4名の方を対象に実施した。

調査結果のポイント

◆調査結果のポイント

①公立高等学校現職教員対象のアンケート調査

民間企業等での勤務経験がある教員は、「教科横断的なスキルの指導（例：創造性、批判的思考力、問題解決能力）」、「生徒が学習の価値を見いだせるよう手助けする」、「キャリア教育の観点から生徒に指導・助言等をする」、「広い教養・常識を有している」などについて、「自信を持っている」、「できている」、「あてはまる」といった肯定的な回答割合が高い傾向にあることが明らかになった。

②民間企業等での勤務経験を有する現職教員対象のヒアリング調査

民間企業等での勤務経験が活かされたと思う場面として、直接的に教科の内容と仕事の上での経験・専門性が関連していたということのほか、授業等の場面で経験談を踏まえて話ができることなどが挙げられた。

③教育委員会対象のヒアリング調査

民間企業等勤務経験者に期待することとして、「スペシャリスト」、「学校の教育力を高める存在として」、「学校の特色化・活性化を図る中でスキル・力を発揮する存在として」といったことや、「産業系の学科等での新たな技術の取得」、「進路指導での経験を活かした指導」、「海外での経験などによる効果」などが挙げられた。

今後の課題

◆より大規模かつ代表性のあるサンプルでの調査実施

・アンケート調査について、教員の入職前の多様な経験の内容・経験年数や入職経路の違い、担当教科、教員としての勤務年数等の諸条件を考慮した上での比較分析が必要と考えられる。
・そのために、本調査研究で得られた知見を踏まえつつ、より大規模かつ代表性のあるサンプルで調査を実施し、エビデンスを得ていくということが重要である。